

令和7年度 学校自己評価書

鈴鹿市立白子小学校		NO.			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)	評価指標・行動指標	成果○と課題●	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・全教員による授業公開(指導主事を招聘年4回) ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業スタイルの確立 ・児童の興味・関心・意欲を大切にして、考えを深め、表現し、適切に評価する授業の実施 ・ 学びに向かえる掲示物の工夫、教室環境の整備、学習規律の確立	・研究授業を行う教員:100% ・学力調査(学期末テスト)・みえスタディ・チェック:全国平均・県平均以上 ・児童アンケート「授業はわかりやすいですか」:90%以上 ・ 掲示物、授業規律の統一:学年単位または学校単位			
	2 基礎学力の向上 ・少人数指導(習熟度・TT)によるきめ細かな指導 ・「よむYOMUワークシート」「読む・書くワークシート」を活用した読解力、論理的思考力の育成	・算数科少人数指導実施学年(4年生)の算数単元テスト:全国平均以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケートを学期末1回実施(二部会と連携) ・「よむYOMUワークシート」「読む・書くワークシート」は 朝学習 を利用し、週1回実施			
	3 家庭学習の習慣化 ・家庭学習の手引きを作成し、学年×10+10分程度を目標にした家庭学習時間の確保	・児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」:90%以上 ・保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣がついていますか」:80%以上			
ICTの活用	1 教職員のICT機器活用力の向上 ・情報担当を中心に効果的な活用方法の研修推進	・ICT全体研修会:年1回以上実施			
	2 ICT機器を活用した授業の推進 ・日常的な活用の推進 ・ICTサポーターの活用	・ICTサポーターとの連携授業:每学期1回以上 ・クロムブック活用アンケート「授業中にクロムブックをどの程度使っていますか。」:週3回以上、80%以上(4年生以上)			
	3 家庭学習での活用 ・持ち帰りによる家庭学習での活用	・長期休暇の持ち帰り:100% ・日常的な持ち帰り:4年生以上(毎日)、3年生以下週1回以上			
長欠減少	1 人権尊重を基盤に据えた授業実践 ・児童の興味・関心・意欲を大切にして、考えを深め、表現し、適切に評価する授業の実施	・児童アンケート「自分には良いところがあると思いますか」:90%以上 ・児童アンケート「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか」:90%以上			
	2 全ての児童の居場所がある学校づくり ・やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性を身に付ける教育活動の推進 ・いじめアンケートによる児童の実態把握と早期対応 ・SC、SSW、SLS、ほっとルームの活用及び関係機関との連携	・ 不登校対策委員会の実施:毎週定期的に実施 ・代表委員会による挨拶運動:月1回 ・集会活動:学期1回以上(生指部と連携) ・児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」:90%以上 ・不登校(傾向)児童の児童生徒理解・支援シート作成:100% ・長期欠席(30日以上)児童数: R6年度 以下			
地域連携	1 地域に「開かれた学校」の推進 ・地域人材・地域教材を活用した 教育活動 の推進 ・地域ボランティアの活用 ・地域・家庭と連携した防災、防犯、交通安全の取組の実施	・スポーツ出前授業等外部人材を活用した出前授業を各学年1回以上 ・ボランティアによる学習支援や見守り支援等:年200回以上 ・津波避難訓練、引き渡し訓練実施:年1回 ・交通安全教室実施:年1回			
	2 教育活動の公開・情報発信 ・学校行事と授業の公開 ・学校通信、学級通信、HPによる情報発信	・授業参観(学校公開デー):学期1回実施 ・学年、学校だより発行:年12号以上作成 ・ホームページ更新:毎日更新 ・保護者アンケート「学校通信やHP等で 学校の情報 を伝えていきますか」:90%以上			
特別支援教育	1 個に応じた支援の充実 ・個別の支援計画・個別の指導計画の作成と児童の情報共有 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応 ・外国籍児童の支援体制の充実 ・外国籍児童巡回相談(支援)員の活用 ・関係機関(子ども家庭支援課、教育支援課等)や保護者と連携した取組の充実 ・通級指導教室の効果的な活用	・ 特別支援委員会の実施:毎週定期的に実施 ・支援会議、ケース会議の実施:必要に応じて行う。 ・個別の支援計画・指導計画の充実:前期後期2回更新 ・国際学級設置による取り出し:週9時間以上 ・ JSLバンドスケールを用い、児童の日本語能力を把握して共有。 ・学年だより等の翻訳文書を発行 ・ 通級指導教室の充実:児童26人以上が入室			
	2 特別支援教育の視点にたった教育活動の充実 ・集中できる落ち着いた学習環境づくり ・見通しを持たせる授業の実施	・ユニバーサルデザインの授業づくり研修会:年1回以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケートを学期末1回(二部会と連携)			
生徒指導	1 落ち着きのある生活態度 ・重点目標(挨拶・返事、廊下・階段歩行、チャイムを守る、トイレの使い方、校内の整頓、無言清掃)の徹底 ・学びに向かえる学習環境、学習規律の確立	・重点目標の振り返り: 毎月の生活部会で確認 ・児童アンケート「進んであいさつをしていますか」:90%以上 ・児童アンケート「学校の約束や決まりを守ることができましたか」:90%以上 ・児童アンケート「友達にやさしくできましたか」:90%以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケート:学期末1回(二部会と連携)			
	2 対話を重視し、児童の良さや可能性を認め、共感しながら接する組織的な指導 ・各教職員が、常に自身の取組を振り返り、 児童により好影響を与える関わりとなるよう改善する	・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケート:学期末1回(二部会と連携) ・ 児童の状況や教職員の関わりについての振り返り:毎月の生活部会で確認			
	3 問題行動の未然防止 ・アンケートや対話による実態把握を実施 ・電話、家庭訪問、懇談会、PTAとの話し合い等による保護者との連携	・いじめアンケート:年3回実施 ・保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:85%以上 ・校内での児童の情報共有:週1回以上実施			
組織的な学校運営と働き方改革	1 全教職員による学校運営への参画 ・人事評価制度を活用した管理職との面談 ・二部会等の活性化 ・教職員間の対話を重視した風通しのよい職場づくり ・ 校務DXを進め、教育の質を向上させ、効率化する。	・面談:年3回以上 ・企画委員会、 職員会議の充実:月1回以上実施 ・コンプライアンス宣言の設定:全教職員100% ・ デジタル教科書の積極的な活用、教材・教具の共有等、日常業務の効率化を図る。			
	2 時間外労働の削減 ・ 教職員間の交換授業、教科担任制を推進 ・職員会議提案資料の事前確認と提案の簡潔化 ・クロムブック校内掲示板とホワイトボード連絡黒板の活用と共通取組の遵守 ・定時退校日の設定と出退勤システムによる勤務時間の確認	・一人当たりの月平均時間外労働:30時間以下 ・ 教職員の過当たり授業持ち時数を少なくする:全国平均以下 ・放課後開催の会議を60分以内にすると:70%以上 ・定時退校日:月2回設定			